



単年度方針

# 創れ！ 恵寿バリュー



## 2018 年度けいじゅヘルスケアシステム業績集発刊にあたって

平成最後の年度を総括する時期となった。社会は、バブルからその崩壊に、アナログからデジタルに、そして地域は、少子高齢・人口減社会に突入した。まさに、時代の変革期であり、また次の時代に備える年となった。

その中で、単年度方針を『創れ！ 恵寿バリュー』とし、われわれのこれまで行ってきた業務を改めてバリュー（価値）とすること、さらにわれわれの強み弱みを把握したうえで新たなバリュー（価値）を創出することとした。

以下に主な取り組みをあげる。

外部評価として、2016 年の日本サービス大賞総務大臣賞、2017 年の Good Design 賞特別賞に続いて、今年度は国際病院連盟最高位賞を受賞した（特別掲載ページ参照）。われわれが進めてきた恵寿式地域包括ヘルスケアモデルが国際的にも認められ、その内容は 3 月にマレーシアで開催された Asian Healthcare Transformation Summit 2019 で特別講演として招聘された。また、健康経営優良法人 2019（大規模法人部門・ホワイト 500）に前年に引き続き認証された。

恵寿総合病院では、北陸唯一の外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）認証病院を、また本部・病院事務部では ISO9001 シリーズの国際認証を継続した。

施設として、穴水町に障がい者自立ホームけいじゅを移転新築し、ヘルパーステーション銀河を開設、同町の恵寿鳩ヶ丘を石川県初の介護医療院としてモデルチェンジを行った。また、新規事業として恵寿総合病院訪問看護ステーション、新設した生活支援部事業としてベンリー七尾店を開設した。

設備・機器では、仮想システム導入後 5 年を経過したサーバーを、大規模リプレイスし、金沢病院も仮想化環境で統合した。また、マンモグラフィ、結石破碎装置（ESWL）、全血液浄化装置を最新のものに更新し、医療の質の向上と効率化に資することとした。

職員教育では、キャリアデザインプロジェクトを推し進め、この年度に E-learning 25 講座、Case Study 6 講座を自主制作し、2019 年度から開始するハイブリット型研修準備とした。

目標管理制度を本格的な BSC（Balanced Score Card）を利用し、KPI を意識した進捗管理を行った。各業務部門におけるサービス向上による増益と支出の統制にて、けいじゅヘルスケアシステムの董仙会、徳充会とともに黒字決算を迎えることができたことに感謝したい。



令和元年 6 月吉日  
けいじゅヘルスケアシステム理事長  
神野 正博